ISSN 0910－2396

野鳥だより
―北海道―

第 73 号

編集・発行　北海道野鳥愛護会

発行年月日　昭和63年 9 月21日

ヒクイナ　1987. 5　北桧山町　　撮影者　見延　誠一

もくじ

私たちの探鳥会、
十七年の記録を拝見して……溝部　泰子……2
チョウゲンボウ営巣記録……山田　良造……3
天然記念物 クマゲラ コクガン報告
隅田　重義・越田　幹男……5
珍鳥ニュース……7
探鳥会報告……7
探鳥会案内……12
鳥民だより……12

愛護会のみなさんへ

私たちの探鳥会、十七年の記録を拝見して

溝　部　泰　子

すばらしい十七年の記録をありがとうございました。人材豊富の愛護会にしても、これだけのものを作られるのはさぞ大変なことでしたかと存じます。

昭和四十四年秋、私は転勤の主人について知人もいない札幌に参り、長い冬が去ったはじめての春に、新聞で探鳥会の案内を見つけました。早朝、福住バス停から乗ってしばらく行くと色の黒い小柄の女性が乗り込んできました。小さな体に大きなリュック。使い込まれたリュックはかっちり上手に詰められ、他にもカメラの類を持っています。若くもないのに（ゴメン！）ぴしりきまった身ごなしの人に、私は札幌にはこういう人が…と見とれましたが、それが萩さんで、私の愛護会との最初の出逢いでした。

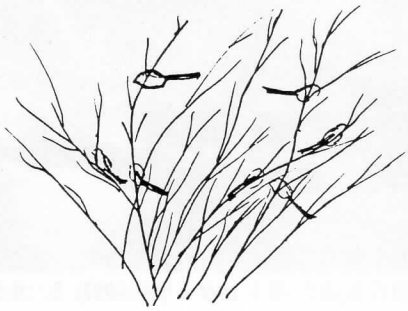
愛護会のリーダ達は実に根気よく親切でした。お互いに仲良く楽しそうなので、それが探鳥会の雰囲気になりました。小人数で野幌など歩く時にも決して園路をはずれて鳥を追ったりしないよいマナーがありました。鳥だけでなく木のことも沢山教えて下さいました。私は、それらを当然として身につけましたが、いま思えば、北海道野鳥愛護会育ちは、バードウォッチャーとしてまことに毛並みよい幸せな育ちだったようだと感謝しております。

五十二年藤沢に戻り、札幌仕込みの識別力を頼まれて地元の小さい探鳥クラブの手伝いをはじめましたが、お陰様でだんだんによい仲間がふえ、私は代表をつとめることになり、会員も今年は丁度百人になりました。

野鳥だよりの探鳥会報告を見てはいつも古い方達のお名前を懐かしみ、大勢の存じあげないお名前のあることを喜んでおります。お世話になった方々にだんだん御無沙汰がちになってしまいましたが、どうぞ皆様におよろしくお伝え下さいませ。

出版記念会の御盛会と愛護会のいよいよの御発展をお祈り申しあげます。

〒251 神奈川県藤沢市片瀬山3－21－19



チョウゲンボウ営巣記録

山　田　良　造

1.　はじめに

ハヤブサ科チョウゲンボウはハトぐらいの大きさで、日本では全国的に分布するが、繁殖が報告されている地域は本州中部から北部で、特に長野県の九十九谷や十三崖が知られている。最近は山梨県甲府市内のビルに営巣し、街の中で繁殖することで話題となっている。

北海道では秋から冬に記録されるが、繁殖が報告された記録はなく今年美唄で営巣し、ヒナ4羽巣立ちしたのを断片的にも観察した。

2.　観察日時

昭和63年4月10日～7月2日

3.　営巣場所

美唄市上美唄南美唄農機具保管倉庫

4.　営巣地の環境

営巣地は石狩川の支流旧美唄川が蛇行して流れる流域で、水田や麦畑が広がり農家がまばらに点在し、農耕地を区切るようにヤチダモの防風林が続く田園地帯である。

営巣地西側は旧美唄川で河に沿って農道が走り、北側は川幅10ｍぐらいの幹線用水路で、22線橋で旧美唄川に合流している。営巣した建物は木造モルタル60平方ぐらいの平屋造りで、この地域の人々が共同で使用する農機具保管倉庫である。チョウゲンボウはこの倉庫北側高さ4ｍぐらい屋根裏すき間に営巣した。

5.　観察日記メモ

(1)　4月10日14時～15時　晴れ

小堀煌治氏と旧美唄川沿いをバードウオッチング中、小型のタカが倉庫上空で激しく交差しながらの空中戦を観察した。それは番いのチョウゲンボウのテリトリーに別の♂が侵入し、これを追い出すための攻撃とわかった。やがて侵入した♂は去り、番いのチョウゲンボウは倉庫の窓わくに止り、この周辺から離れようとしない状況から営巣する可能性があった。

(2)　4月20日10時～15時　晴れ

チョウゲンボウの♂は倉庫に西側の電線に止りテリトリーの見張をしている。10時15分♀が飛来して倉庫屋根裏のすき間に入った。♀はそのままでてこないので抱卵中と思う。15時♂はねずみを捕えて飛来し倉庫屋根裏のすき間に入った。抱卵中と思われる♀にねず

みを渡して出てきた。その後♂は倉庫の窓わくや電柱に止りテリトリーの見張をしていた。

(3)　5月1日10時～14時　くもり

♂は倉庫窓わくや電柱に止りテリトリーの見張をしている、ときどき旧美唄川を超えて飛んで行くが5分ぐらいで戻ってくる。♀の姿は一度も見ないので抱卵中に間違いない。

この倉庫にはムクドリが営巣しヒナが生れている。40ｍ先柳の木にはハシボソガラスが営巣し巣立ち近いヒナがいる。チョウゲンボウはそれ程気にしていないようだ。

(4)　5月28日8時～11時　くもり

倉庫の窓わくに♀が止っている。長い間抱卵していたためか羽が毛ば立っている、状況からヒナが生まれたようだ。

12時♂がねずみを捕えて飛来し、♀はキイキイ鳴きながら♂からねずみを受取ると旧美唄川土手に降りた、♀は5分ぐらいで戻り♂の止っている電柱に♂と列んで止った。このときキイキイ鳴声がし電柱の上で交尾が行われた。ヒナが生れてからでもカワセミなどの交尾を見たことがあるが、チョウゲンボウは初めて見た。その後♂は飛去り♀はテリトリーの見張を続け、ときどき♀はヒナの様子を身に巣に出入りする。

(5)　6月4日9時～11時　くもりのち雨

灰色の綿毛に包まれたヒナが屋根裏のすき間から見えキイキイ鳴いている。♀は電柱で見張をしている。

12時♂がねずみを捕えてきた。♀はキイキイ鳴きながら倉庫上空でヒラヒラ飛翔しながら♂からねずみを受取った、いったん旧美唄川を越えて畑に降り4分ぐらいして戻りヒナにねずみを運んだ。

(6)　6月5日14時～17時　くもりのち晴れ

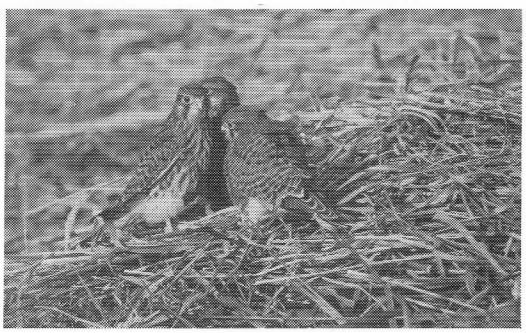
♀は電柱に止りテリトリーの見張をしながら、周りの獲物の動きにも鋭く目を光らせ、急に飛立って地上すれすれに飛びねずみを捕えた。又用水路や水田のあぜ上空をヒラヒラ飛翔しながら獲物を捜し、観察した3時間で3回（14時50分、15時5分、15時30分）ねずみを捕えてヒナに運んだ。

♂は15時30分ねずみを捕えてきたが、♀が巣にいたので倉庫の窓わくに止った。♀はキイキイ鳴きながら巣から出てきて♂からねずみを受取り川岸に降りた。3分ぐらいしてから♀はヒナにねずみを運んだ。

(7)　6月11日9時40分～11時30分　晴れ

10時♂はねずみを捕えてきた。倉庫窓わくに止りテリトリーの見張をしていた♀はこれを受取り川原の土手に降りた。♀は3分ぐらいしてねずみをヒナに運んだ。

ヒナは灰色の綿毛が抜け親と同じくらいに成長して



いる。ヒナが成鳥すると♀は見張だけでなく、ひんぱんと獲物を捜しに出かけ、ヒラヒラ飛びまわり水田のあぜなどに降りてねずみを捕えようとするが、特に地上では動きが悪く失敗し獲物に逃げられた。

（この日は柳沢信雄ご夫妻と観察した）

(8)　6月15日16時～18時　くもり

屋根裏のすき間から巣立ち近いヒナ4羽可愛い顔をして外を見ている。ときどきお尻をあげて外に向け白い乳状の糞を放水し、巣の下は壁やヨモギなど雑草が白い歯磨粉をかけたように汚れている。

♀は電柱に止っていたが、ひんぱんに飛立って獲物を捜している。しかしねずみが少なくなったのか、それともヒナの巣立ちが近いので餌を与えないのか餌は運ばない。

17時♂がねずみを捕えて飛来したが、このとき♀は留守で♂は初めて直接巣に入りヒナにねずみを与えた。

(9)　6月21日17時～19時　晴れのちくもり

ヒナは巣立ちしていた。倉庫の窓わくに1羽、倉庫の東側40ｍ先柳の木に2羽、電柱に1羽止っている。付近農家の人は「2日前から見ている」と言っており、巣立ちしたのは6月19日のようだ。

17時20分ヒナがキイキイ鳴きだし80ｍ先の用水路土手に集まった、♂がねずみを捕えてきて与えたのである。2羽のヒナがねずみを奪いあいしている。♂はヒナから5ｍぐらい離れた草むらに、体を沈めるようにしてヒナを見守っていた。

ねずみをたべ終ったヒナはヒラヒラした飛び方で50ｍ先のポプラの木に止った。19時ヒナたちは倉庫窓わくに集まってきて体を寄せあい止っていた。

(10)　6月22日17時～18時　晴れのちくもり

倉庫の窓わくにヒナが1羽止っている。このヒナは一番弱そうで元気がない、3羽のヒナは倉庫周辺を飛びまわり電柱やポプラの木に止っていた。ときどき用水路の土手に1羽が降りると別の1羽も降りた。暫くしてポプラの木に戻ってきた。

(11)　6月29日17時30分～18時30分　晴れ

ヒナは倉庫窓わくに3羽、電柱に1羽止っている。

1羽ヒラヒラと飛びまわり80m先のポプラの木に止ると、次々に別のヒナもポプラの木に飛んでいく、飛行力が増したようである。しかし、倉庫の周辺からは離れようとしなかった。

(12) 7月2日11時～13時 晴れ

倉庫の周辺にチョウゲンボウの姿がない。近くの防風林や神社の森を捜してもいない。

12時10分、営巣地から1kmぐらい離れた旧美唄川の下流にチョウゲンボウはいた。旧美唄川の上をヒラヒラ飛翔しながら餌捜しをしているようだ。やがて土手のカラマツ枯木にヒナ3羽が止った。1羽は電柱に止っている。1羽が川原の土手に飛んでいくと次々別のヒナも飛んでいく、餌捜しをしている様子であるが自力で捕えたのは見なかった、♂は一度100m先の電線で見たがすぐ飛び去った。♀はヒナによく似ているため近くにこない限り識別できなかった。観察した1時間では親とヒナの関係が把握できなかったが、近くでヒナを見守っていると思う。

6. おわりに

3カ月近くチョウゲンボウを観察したが、休日や仕事が終ってからの断片的観察で、とても営巣記録と言えるものではなかった。観察してわかったような気がするのは、旧美唄川流域は餌となるねずみが多く生息し、チョウゲンボウの営巣環境に適していたこと、営巣がはじまると抱卵中は♂がテリトリーの見張役。ヒナが生まれると♀が見張役で、♂はねずみを捕えて♀に渡し♀からヒナに餌が与えられる。ヒナが成長すると♂♀共に餌捜しに忙しい、巣立ちが近くなると♀が留守のときは直接♂もヒナに餌を与える。

わからない点は♂がねずみを捕えてきて♀に渡すと、受取った♀は直接ヒナに運ばず、いったん川原の土手に降り、そのあとヒナに運ぶ、受取ったねずみを完全に殺して、たべやすくしてから運ぶのかよくわからない。

巣立ちしたヒナは2週間は営巣地周辺にいると言われているが、今回も2週間ぐらいでぐらいで1km離れた地域に移動していた、しかも♀と区別できないくらい成長し飛びまわっていた。4羽のヒナを育てたチョウゲンボウによくやったご苦労さんと声をかけたいきもちでした、来年も是非営巣してくれるよう願っている。

〒003 札幌市白石区栄通16丁目4－13

天然記念物・・クマゲラ、コクガン報告

自然保護委員　隅田重義・越田幹男

1. クマゲラについて

52年から観察調査をつつげてから今年で12年になる。今年で27羽が亀田川上流の道有林（トド松林）から巣立っている。

今までにあちこちと調査に出向いているがこんな条件の良い環境の良い森林はない。珍しい。これまでに一番多かったヒナの数は4羽であったが、とにかく親の苦労は大へんなものとわかった。今年はオス1羽メス2羽で無事巣立った。今年の気象条件はわるく餌を運ぶ親を待つ吾々の苦労も亦大へんで、4時間、3時間を待つのは普通であった。待つ間降るようなセミの声とみどりのそよ風は実に良かったが、虫には降参した。殺虫剤、線香

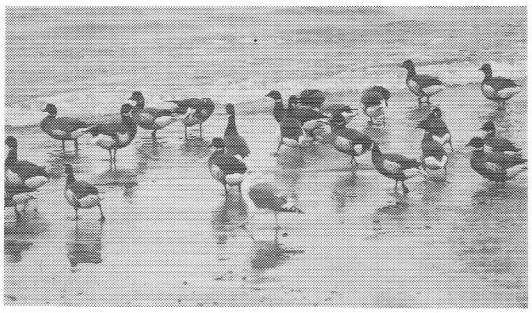
クマゲラ

を腰に下げての時間であった。とにかく1月の雪の深い頃から6月24日巣立つまで根気よく調査観察を2人で重ねたが楽しいものであった。クマゲラの一刻も油断できなかったのは、周囲にいるカラスの群れであった。この状況を8ミリで撮影したが、今までにない警戒ぶりであった。あのような親の鳴き声を耳にしたことはなかった。6月24日、無事に揃って巣立ったかと思うと、その育て方警戒のし方に感心し安心し喜んだ。

今日貴重な鳥の減っていく環境の中で、保護対策は緊急を要することである。有り難いことに、支庁の自然保護係には勿論のこと、林務署、営林局による保護対策に協力を得たことは何よりであった。何も知らないクマゲラがやはり吾々の対策の中に尊い生命の持続ができることは吾々の努めであると心から強い力の湧く思いをした。

2. コクガンについて

昭和48年から今日まで15年間、調査をつづけて今日に至ったが、初めは21羽であったが昨年は過去最高の607羽を数えた。主に函館湾とその付近に12月半頃飛来し翌年4月に北国へ帰る。何と言っても環境（磯）にあり餌の豊富さにある。今年は海の気象わるく餌となる海藻の生育は良くなかった。でも272羽を数えた。陸奥湾の方へでも行っていたとも思われるが定かでない。コクガンの調査はクマゲラと全く異って大暴風雪と寒気の中であるので容易ではないがこんなことにへこたれてはいられない。健康と気力はコクガンにも負けなかった。わけても終認の確認は大へんであった。もう去ったのかと思うと残っている。根つめて、1羽を発見、これが最後であった。4月18日のことである。1羽残ってるとまことに解しがたい。繁殖地へ長い距離をどうして行ったのかと今も不思議でならない。彼等には第六感があるのではなかろうか。自然界にはどうも分らない不可思議の事がある



コ ク ガ ン

ようである。鳥にきいてみたら一番良く分ることであろう。今年も亦お目にかかれると思うと楽しい。春の海、夏の海を眺めながら、…コクガンを想うこと友人としきりである。(故)吉沢君を偲んでいる。繁殖地をぜひこの目で見たいものである。計画を進めている。

3. 終りに

12年、15年と共に調査に当った故吉沢鳥獣保護員の突然の死を悼むと共に尚一層励みたいと誓っている。良友を失う。しかし失ったよりも更に大きなものを彼から得た。彼は一つ一つ重ねる真実者であった。社会貢献賞前田一歩園賞、函館市体育功労者等、長年の功労は大したものである。この報告と共に彼を追慕するものである。

(附)コブハクチョウについて

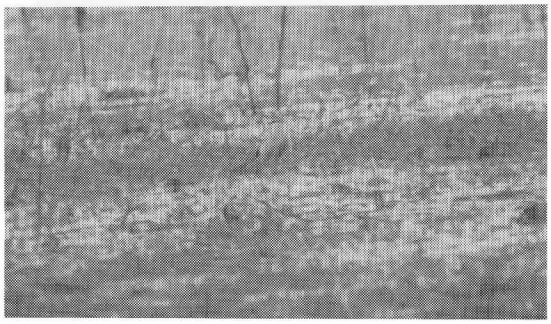
一年有余、羽を傷めたコブハクチョウ函館市のどまん中に流れる亀田川で過したが、市民もよくかわいがり、そのうちに羽も自然の原理で治ゆしたのか、海に出て、飛び去った。丁度石崎海岸の交番の巡査と共に沖を眺めていた時…飛び去ったのを見て安堵した。やはり育て護ることであった。

(故)吉沢鳥獣保護員を弔う…茂辺地海岸にて

珍鳥ニュース

キマユツメナガセキレイが石狩に

竹内　強



5月26日、当別の方にセイタカシギが来ているとの情報を得、カメラ等を用意して出かけた。草原っぽいところが雪どけ水なのか、湿地のようになったところに来ているとのこと。また、水がなくなったらいなくなってしまうとのことなので、戸津夫妻、長谷川さんと4人でミニ探鳥会としゃれる。

セイタカシギは頭の黒いのと白いのと各一羽ずつ、本当にかわいい感じでカメラの被写体としては申し分ない。写真を一通り、撮り終ると、余裕がでてきて周りにも気がゆく。コチドリが1羽、タカブシギが3羽、遠くでシマアオジの声がする。

「あっキセキレイもいますね」「こういうところにキセキレイはあまりいないものですよ」と長谷川さん、良く見ると顔が黒くない、のどの部分が黄色。一生懸命、図鑑と見くらべて「キマユツメナガセキレイ」ではないかという結論。写真に撮って確認してもらいました。

（上の写真）思わぬ珍鳥に巡り会えて、思わずニッコリしました。

札幌市豊平区中の島2条8丁目3－31

千　歳

63.5.14～15　荒川　真須美

学生時代は、土日といわず、自主休講してまで山に登ったものでしたが、勤めてからはすっかり外にでる事もなくなり、欲求不満気味でした。正直に言えば、とにかく外の空気を胸一杯吸いたくて、千歳川探鳥会に参加させていただきました。

浅い眠りから目がさめると午前3時、顔も洗わずに外へ出てみます。空にはまだ星が見え、肌寒くさえあります。アカショウビンの鳴き声が聞こえるかもしれないと教えていただいたのですが、残念ながらダメでした。

空が白み始め、天気もまずまずです。さぁ出発です。探鳥会もまだ二度め、鳥の名前も特徴もわからず、視界に鳥の姿を入れる事にも四苦八苦し、まわりの方々に鳥を見せていただくという、甚だ受動的な参加のしかたでした。それでも、少しずつ双眼鏡の扱いにも慣れ、なんとか鳥の姿を探せるようになってきました。オオルリとキビタキが、同時に視界に入ったときは、さすがに感激。名前通り、ルリ色のオオルリと胸が黄色のキビタキ。カラフルで、美しかったです。

頭上をヤマセミが何度か飛んだそうですが、鈍い私はよくわかりません。皆さんの声で空を見上げると、ヤマ

セミは、はるか遠くに飛び去ったあと。いつか、あの冠のような頭をじっくりと見てみたいものです。

ヤマセミやアカショウビンは見られなくても、私にとっては、見る鳥それぞれめずらしくてかわいらしいものばかりでした。ホオジロ、ニュウナイスズメ、ハクセキレイ等々。それに、土の上を歩くのはやはり気持ちのいいものです。それだけでも大満足の探鳥会でしたが、最後に大きな付録（？）がついてきました。カワセミを見る事ができたのです。長いくちばし、緑色とオレンジの体。美しいその姿に、見入ってしまえるほど長いあいだ、私の目の前にいてくれました。

次はどんな鳥に出会えるのでしょうか。

西区西野５条４丁目３－８

［記録された鳥］アオサギ　オシドリ　マガモ　トビ　キジ　イソシギ　オオジシキ　キジバト　アオバト　ツツドリ　アオバズク　ヤマセミ　カワセミ　ヤマゲラ　アカゲラ　コゲラ　ツバメ　イワツバメ　キセキレイ　ハクセキレイ　セグロセキレイ　ヒヨドリ　モズ　レンジャクＳＰ　カワガラス　トラツグミ　クロツグミ　アカハラ　ヤブサメ　ウグイス　エゾムシクイ　センダイムシクイ　キビタキ　オオルリ　コサメビタキ　エナガ　ハシブトガラ　ヒガラ　ヤマガラ　シジュウカラ　ゴジュウカラ　キバシリ　メジロ　ホオジロ　アオジ　オオジュリン　カワラヒワ　ベニマシコ　イカル　シメ　ニュウナイスズメ　スズメ　カケス　ハシボソガラス　ハシブトガラス　ドバト　以上　56種

［参加者］川守田順吉　安東真理子　大浦美佐子　堀内進　大野信明　竹内強　宗澤美佐子　福岡研也　白沢昌彦・光明　大坊幸七　戸津高保・以知子　豊口肇・美代子　田中礼子　佐々木武巳　柳沢千代子　千葉広　松井昌　小林美智子　西川喜久世　国本昌秀　荒川真須美　志田博明・政子　武沢和義・佐知子　桝川保・弘子　谷口一芳・登志　見延誠一　板垣定親　今野弘　早瀬広司　清水朋子　道川弘・冨美子　関口健一　金上由紀・倫子　森川亮・凌子　井上公雄　以上　45名

担当幹事　柳沢千代子　戸津高保　井上公雄

P.L オオジシギ

植苗探鳥会の感想

63.6.12　安東　真理子

「あの赤い実がなっている木は何でしょう？」

丈の低い木の枝先にクルミ大の実がなっている。熟したリンゴの色で明るくあかい。

「コナラかな？」

割った実を見ると種が２つある。やっぱり木の実らしい。しかしルーペで見せてもらってびっくり。コリンゴどころか中はかえった幼虫でいっぱい。一瞬、色つきの細密画がみるみる現実のうちに孵ってゆくような生々しさにめまいを感じる。そういえば若葉の林の中は目につくところ虫のゆりかごだらけ。探鳥会といっても私は鳥の声を聞き分けられないのでいきおいそちらの方へ目がゆく。毛も色も様々の毛虫、払っても離れないタンポポの綿毛のような羽虫、ちろちろヒラヒラ、どこももっと沢山の虫の気配。大きな食糧庫に住んでいるようなものだなぁ、ノビタキやオオジュリンは。そんなことを考えていたらしきりに旋回しているトビまで違って見えてきた。生態系。習ったままなかなか使われずに眠っていた言葉です。怖しいことに。

野外を歩けばルーペひとつで赤い木の実が幼虫の密集アパートに変ってしまう世界がある。何より見知っていると思っていた図鑑のトリが双眼鏡や望遠鏡の向こうに本物のノビタキとして本物のオオジュリンとして現われるとき。それは言葉では言いつくすことのできない喜びでありいつも新鮮な驚き。ひとりの職業人として過ごしている日常とは別の眼を使っていつの間にか鳥や虫や世界をみつめているらしいことに気づく、探鳥会はいつも不思議で異質ないちにちです。

札幌市西区手稲星置235－15

［記録された鳥］アオサギ　マガモ　カルガモ　ヨシガモ　トビ　チュウヒ　オオジシギ　キジバト　アオバト　カッコウ　ツツドリ　アカゲラ　ヒバリ　ショウドウツバメ　ハクセキレイ　ヒヨドリ　ノビタキ　ウグイス　エゾセンニュウ　マキノセンニュウ　コヨシキリ　センダイムシクイ　キビタキ　シジュウカラ　ホオジロ　ホオアカ　シマアオジ　アオジ　オオジュリン　カワラヒワ　ベニマシコ　イカル　スズメ　ムクドリ　ハシボソガラス　コブハクチョウ　以上　36種

［参加者］早瀬広司　豊口肇・美代子　荒川真須美　宇井晴穂　国本昌秀　羽田恭子　前田昭弘　堀内進　富川徹　千葉広　香川稔　安東真理子　谷口登志　小堀煌治　武沢和義・佐知子　千葉勝美　板垣定親　見延誠一　野本節郎　浪田良三・典子　桝川保・弘子　長山義雄　佐々木武巳　柳沢信雄・千代子　別所正章　矢州代　水嶋貴広　松井昌　大坊幸七　犬飼弘　今野弘　丸山薫・かおり　鎌田　佐藤恒彦　竹内強　板垣一　戸津高保・以知子　潮文武　飯山　田中和徳　大野信明　澤田　大西典子・やすひと　野坂英三　田中金作・礼子　森岡弘光　古田真砂子　井上公雄　以上　57名

担当幹事　堀内進　井上公雄

探鳥心が湧いてきた　東米里

63.6.19　**高橋　洋**

札幌市東区本町2条2丁目1－4

野鳥に関心を持つようになったのは、昨年、東区区民講座「札幌自然散歩道（みち）」を受講したことがきっかけである。野生生物情報センターの人が先生で、山野の植物、野鳥、時に虫や小動物について実際に手で触れたり双眼鏡を覗いたり、雨の日はこれらをスライド学習したり野鳥の剝製を見たりして勉強を重ねた。

鉛筆ほどの太さで高さ50cm位のミズナラの木が8年も経ているのにこれだけしか大きくならないということを知った時、だから大きな樹を簡単に伐採してはいけないのだとひとり合点した。樹があって鳥やリスや兎などの小動物のそして人間の共存きょうえいが成り立つことを自分の中に再認識したものである。

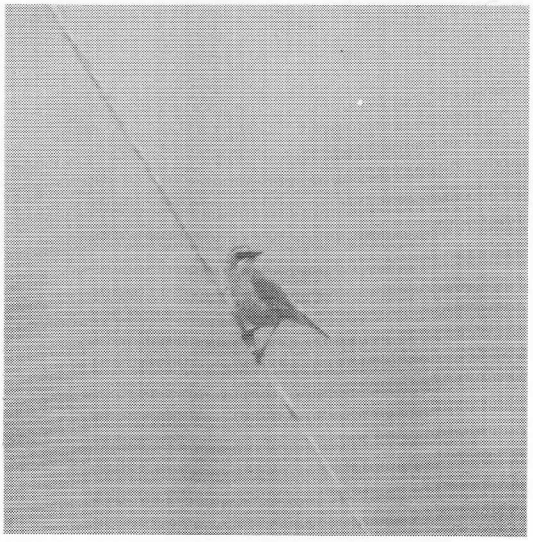
これまでの勉強会でやっとシジュウカラを覚えたばかりのある時、福移でノゴマを見て「私の住んでいる札幌にもこんなめずらしい鳥がいるんだなあ」と最高に胸が高ぶり以後ますます探鳥に出歩くのが楽しみになった。

今年5月、これまた野鳥を知らない夫を誘い円山動物園主催の探鳥会に3回参加し、アカゲラ、キビタキ、オオルリと特徴のはっきりした鳥を見て夫もまた強い関心を持ったようである。

此の度、北海道野鳥愛護会に入会のきっかけとなった6月19日のの東米里での探鳥会に参加の新入りは私たち夫婦だけで大変緊張していたものの、ノビタキの雄親が幼鳥に餌を与える仕種を飽きず眺めているうちに堅いものが次第にほぐれゆくのを感じた。親切にして戴き次回も本当に待遠しい。夕方ビールを飲みながら「カッコウの鳴き声は子供の頃から聞いて知っていたけれど、姿を見たのはきょうがはじめてだなあ」と夫も私も同じことを呟やいた。ビギナーの心ふつふつと湧いてきた。

63.6.19(日)　9:00～12:20　曇～晴

［記録された鳥］アオサギ　マガモ　トビ　チゴハヤブサ　キジ　イソシギ　オオジシギ　キジバト　アオバト　カッコウ　アリスイ　アカゲラ　ヒバリ　ツバメ　ハクセキレイ　モズ　アカモズ　ノゴマ　ノビタキ　アカハラ　エゾセンニュウ　コヨシキリ　ホオアカ　アオジ　オオジュリン　カワラヒワ　イカル　スズメ　コムクドリ　ムクドリ　ハシボソガラス　ハシブトガラス　以上　32種類



P.L　ノ　ゴ　マ

［参加者］荒川真須美　竹内強　千葉広　富川徹・明美　谷口登志　大野信明　佐々木武己　羽田恭子　大西典子・尉仁　佐藤勇　今野弘　大浦美佐子　霜村耕介　柳沢信雄・千代子　杉田範男　泉勝統　長原友美　戸津高保・以知子　豊口肇・美代子　佐川節子　佐藤典子　高橋孝次・ひろみ　早瀬広司　森岡弘光　武沢和義・佐知子　川島幸子　前田昭弘　野沢幸雄　井上公雄　西　諭・早百合　　以上　38名

担当幹事　早瀬広司　富川徹

平和の滝　夜の探鳥会

63．6．25(土)　曇り　18:30～20:40　　井上公雄

1昨年野幌　昨年平和の滝と試行を重ね、3回目の今年は例会として行うことになった。定刻前から20名余りが集り夕暮れ迫る森の中の鳴き声の主を懸命に探し乍ら待って居た。夜行性の鳥を刺激しない様にとの配慮から

出発に先立ち出来る限り私言を慎み、物音を抑え、灯りも控え目にと申し合せ出発する。渓流のせせらぎの中、オオルリ　キビタキ　アカハラ　アオジ等の、陽暮れを惜しむ様な哀調を帯びた鳴き声は、日中のそれとは幾分違う感じがする。その囀りも繁茂する森の道が、次第に暗くなるに連れとぎれ勝ちになり、静まって行った。砂防ダムの池に1組のマガモが仲良く、静かに泳いで居た。暗くなりかけた岸辺に、キセキレイが、最後の餌を探していたが、上流の沢の中へ飛び去った。その方向に、ぽっきりと折れた太い枯木に、ぴったりと留ったヤマゲラを、双眼鏡が捉えた。残り少ない夕日の明りは、肉眼で見える限界である。良く見ると巣穴が在る。中の子供達にになか話かける様に、何度も繰り返し穴の中を覗いて居た。夕日の沈んだ後の薄明りも、次第に暗さを増して行く中を、キキッ　キキッとヤマシギが時々翔び回る。間もなくキョッ　キョッ　キョッとリズミカルなヨタカの鳴き出しの後、暫くして強い風音にかき消えそうに風下から、コノハズク（声の仏法僧）の声が聴こえて来た。

昨年に続いて、今年も又此の森を訪れて居たのである。

静まり返った深山で、ブッポーソー　ブッポーソーと、こだまする鳴き声が、此のコノハズクには最も相応しい、此れからが、本格的鳴きに入る時間帯なのだが引き返さなければならない。生憎の強風、途中に若者がキャンプを張ると言うマイナス面も在ったが、陽の沈んだ暗い森の夜道を最後まで、夜の探鳥のマナーが守られ、気持ちの良い探鳥会になった。深い山へ入らなければ居ないと思われていた、ジュウイチ　ヨタカ　コノハズク等が、都心から地下鉄、バスを乗り継いで1時間足らずの平和の滝の森に居ることは案外識られていない、此れ等の野鳥に直接触れられる、恵まれた自然が身近に存在していることを、1人でも多くの人に識って貰い、神秘的なコノハズクや野生的なヨタカ等の鳴き声に、耳を傾けてみることを、お奨めしたい、そんな念いで家路についた。

［記録された鳥］マガモ　ヤマシギ　キジバト　ツツドリ　コノハズク　ヨタカ　ハリオアマツバメ　ヤマゲラ　アカゲラ　キセキレイ　ハクセキレイ　ヒヨドリ　コルリ　トラツグミ　アカハラ　ヤブサメ　ウグイス　キビタキ　オオルリ　アオジ　ハシブトガラス　　以上　21種

［参加者］川端功治　野口正男・キヨ　羽田恭子　関口健一　武沢和義・佐知子　渡辺加奈子　山田甚一・れい子　戸津高保・以知子　丸山薫・かおり　大西典子　小堀煌治　柳沢信雄　鎌田玲子　佐々木武己　荒川真須美　豊口肇・美代子　犬飼弘　白沢昌彦　千葉広　竹内強　井上公雄　　以上　27名

担当幹事　戸津高保　井上公雄

P．L　ヤ　ブ　サ　メ

福　　移

63.7.3　佐川節子

昨日迄続いた真夏を思わせる様な暑さが嘘の様に、肌寒ささえ感じる程の涼しい探鳥会になりました。

刈り取られた牧草のむせかえる様な香りの漂う中、烈しく吹く風に負けまいと飛び上るヒバリ、葉枝に必死にしがみつきながら囀るオオジュリン、ノビタキ、ホオアカ、コヨシキリの姿を望遠鏡に捉えて見せて頂き、初心者の私にも仔細に観察することが出来、改めて野鳥の美しさ愛しさを認識することが出来ました。

豊平川と石狩川の合流する所でしょうか、柳を背に釣人が糸を垂れて居る付近で、ベテランの方が目敏く対岸に、ベニマシコを教えて下さいましたが、素人の私には見当違いの方を探していると言う恥かしさ。

教えられ繁茂する雑草が激しく揺れ動く中に漸くベニコマシを探し当てた時の喜びを味わいました。

『プロミナに入っているよ』と親切なお誘いに覗かせて頂き肉眼や双眼鏡では解らない余りにも見事な美しい仔細な姿に、言い知れぬ感動を覚え、強烈な印象が脳裏に焦き付くのを憶えました。

きれいに刈り取られた牧草畑を下流に向って歩いて行くと、ショウドウツバメが強風にもめげず、上下左右と自由自在に翔び回る姿は他の鳥と一寸違うなと言う感じです。そのショウドウツバメが遠く対岸に営巣したことも在ると聞きました。護岸工事の為、近年はその数も少なくなったとの事。洪水や整備開発工事等が一番弱い物を犠牲にして行くのだなあーと一寸寂しい念がしました。

辺りを見ますと河川敷の整備が進み到る処、土肌が荒わになり野鳥たちの生活環境ではなくなっている様に感じました。

去年迄は随分沢山の鳥が居た、今年はすっかり少なくなってしまったと嘆声が頻りに聞こえて来ました。同じ開発整備工事をするにしても、生活の場を失う弱者（野鳥）との共存に配慮した進め方はないものか、そんな念が致します。

尚、探鳥会に参加して日の浅い私を、ベテランの皆様方が親切丁寧にご指導下さり感謝の気持で一杯です。

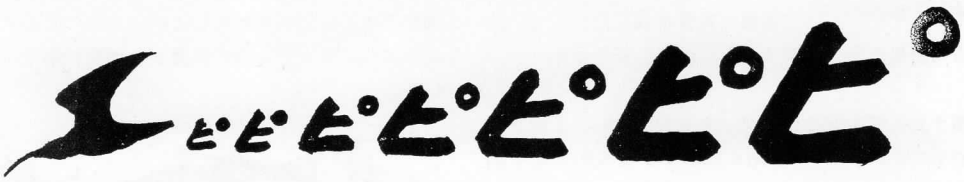
今後共よろしくお願い申し上げます。

札幌市白石区北郷３条１丁目２－３

［記録された鳥］アオサギ　マガモ　トビ　チュウヒ　ウズラ　イソシギ　オオジシギ　ウミネコ　キジバト　カッコウ　ヒバリ　ショウドウツバメ　ハクセキレイ　モズ　アカモズ　ノビタキ　アカハラ　エゾセンニュウ　シマセンニュウ　コヨシキリ　オオヨシキリ　ホオアカ　アオジ　オオジュリン　カワラヒワ　ベニマシコ　スズメ　コムクドリ　ムクドリ　ハシボソガラス　ドバト　以上　31種

［参加者］西　諭・早百合　堀内進　羽田恭子　千葉広　桝川保・弘子　佐川節子　今泉秀吉　鈴木克司　荒川真須美　山田甚一・れい子　竹内強　香川稔　野坂英三　柳沢信雄・千代子　白澤昌彦　霜村耕介　早瀬広司　鷺森美徳　豊口肇・美代子　武沢和義・佐知子　野口正男　佐々木武己　富川徹　小堀煌治　山田良造　井上公雄　以上　32名

担当幹事　白澤昌彦　早瀬広司



＊注釈　シギ

探鳥会あんない

ウトナイ湖

63.11.13(日)

越冬のための南下のピークを迎える、ガン・カモ類が此処ウトナイ湖にも沢山集っています。毎年繰り返されるドラマですが、中には初めての長旅の疲れを癒す幼鳥も多く混っています。渡り鳥たちにとっては、生死を賭けた厳しい試練でもあります。美しい姿や、何気ないしぐさの中にも目的地への無事の念が隠されているのでしょう。此の頃冬鳥として、オオワシ、オジロワシも姿を見せる様になります。

［ウトナイ湖］　昭和63年11月13日(日)

午前10時　ウトナイレイクホテル湖畔側集合

(往)　千歳空港発　9時10分　苫小牧行　道南バス　ウトナイ遊園地下車

(帰)　ウトナイ遊園地発　千歳行　道南バス　13:24　14:14

［小　樽　港］　昭和63年12月11日(日)

祝津　日和山灯台付近　小樽港内をバスで移動しながら海鳥を観察します。祝津　日和山灯台付近では、シノリガモ　ヒメウ　ウミスズメ　各種のカモメ類　港内では、クロガモ　ホオジロガモの群泳、コオリガモ　ウミマイサ等の他、運が良ければ、ウミガラス　ケイマフリ　ウミバト等も観察出来ます。昨年は海鳥を主に26種を記録、夏鳥と趣きを異にした魅力ある探鳥会です。尚、バス利用になる予定ですので 700円程度の参加費が要ります。

ウトナイ湖、小樽共寒い時季です。防寒には充分な気配りが必要です。

午前10時　ＪＲ小樽駅待合室集合

［藤　の　沢］　昭和64年１月22日(日)

バードテーブルに寄る鳥を楽しむ人も次第に多くなって来ました。此処小沢さんの庭は、山裾に在って多くの野鳥を暖かい部屋の窓越しに観察出来る処です。80才を越え今尚野鳥保護への情熱を燃やす小鳥の村名誉村長さんの愛鳥談義を自慢の豚汁を食べながら、そして持ち寄りのご馳走にアルコールも入って、年に一度の室内探鳥会は楽しい野鳥談義で盛り上ります。

参加費　500円　午前10時　白鳥園　定鉄バス　定山渓線　藤の沢下車　徒歩20分

［野幌森林公園を歩きましょう］

昭和63年11月６日(日)　大沢駐車場入口　午前９時集合

いずれの探鳥会も余程の悪天候でない限り行います。

昼食　筆記具　観察用具　雨具等をご用意下さい。

探鳥会のお問合せは　011（551）6321　井上まで

鳥民便り

釧路市丹頂鶴自然公園　新装オープン

昭和33年の開園以来初めて整備費用約３億３千万円をかけて大規模な整備事業を行なっていた釧路市丹頂鶴自然公園が７月２日装いを新たにオープンした。

改築された管理棟はカラマツま丸太を使い、１部２階建て473平方メートル、１階にはタンチョウの生態を紹介する展示室、レクチャールーム、休憩室、２階には展望室が設けられ、これまでと違った機能をもつ施設に生まれ変わった。

また、約９ヘクタールの園内を囲んでいるフェンスも全面改修され、キツネなどの外敵の浸入を防ぐための外周さくも設けられ、また、駐車場も大幅に増やされ舗装された。

この公園は釧路市の観光名所として全国に知られ、年間15万人くらいが訪れているが、念願の新装オープンによりさらにタンチョウの保護と、増殖に期待がもたれている。

［北海道野鳥愛護会］年会費 1,500円 （会計年度４月より） 郵便振替 小樽 １－18287
〒060　札幌市中央区北３条西11丁目 加森ビル５－６階 北海道自然保護協会気付 ☎(011) 251－5465